

運動の推進を” 議員ら 発言

協会の第45回通常評議員会(本紙5月25日付既報)では、評議員6人から保険制度をはじめとする医療運動、地区活動における予算の使い方、決算処理で発言があった。執行部の答弁があり、各議案はすべて提案どおり可決された。(以下、発言要旨の文責は編集部)

選定療養は国民・患者の格差まねく

戸井逸美評議員
(大阪市東部地区)

議案に賛成する立場で発言します。混合診療、選定療養に反対していくのは当たり前のことだと思えます。特に選定療養というのは、一度導入されると保険に入らないし、お金のない人は受けられない。国民、患者さんが納得するような制度にどのようなものがあるのか、保険連や各県の協会と協力して、大阪がイニシアチフをとって進めていきたいと思います。

「医療どお〜ナル」放送時間の拡大を

土田 仁評議員
(泉州地区準備会)

私は「医療どお〜ナル」という番組について説明します。サンテレビで毎週水曜日の夕方5時15分から3分半放送されています。2007年4月から医科協会が取り組み始めて3年目になります。

公的医療は、格差社会において大事な存在ではないかと思えます。選定療養という小さな枠にとらわれず、運動を進めていきたいと思います。

オンライン義務化訴訟が大きな力に

福西啓八評議員
(大阪市西部地区)

レセプトオンライン請求反対の訴訟をしていただき、ありがとうございます。

医学総合誌に「撤回訴訟が相次ぎ義務化の例外も検討へ——混乱のオンライン請求義務化」という記事が大きく出ています。この「義務化先延ば

の可能性」というタイトルも使われています。

行政を相手に訴訟を起こしていくことは非常に困難なことです。訴訟が非常に大きな力になっているということ。2つ目は、協会の活動、運動内容をもっとわかってもらうこと。

国民の立場に立ったすばらしい協会の活動をメディアを通じて広くPRしたい。一生懸命深夜まで会議をやっている3分半の番組しかできない。できればもう少し放送時間を延長していただきたい。

また、年に1回の私の発言、せめて5分はいただきたい。よろしく願います。

アメリカ医療の惨状アピールすべき

梁川喜舜評議員
(大阪市南部地区)

3年ほど前にNHKで、アメリカの医療についての特集番組がありました。番組作成メンバーは夜遅くまで真剣に、日本の医療問題をテーマに議論し

小泉元首相はアメリカ

からの要請で日本の保険を開放すると約束させられている。将来、日本の保険医療がどうなるか、それを分かってもらうためにはアメリカの状態をもっと言えばいい。

なってアメリカのようになつてしまえば、医療費負担も上がるはず。心筋梗塞で1200万、医療費を払うため家も売ったという話もあります。将来どうなるかということ、おしいちゃんや

執行部からの答弁

【伊津進弘理事長】

戸井先生、福西先生、土田先生、梁川先生ありがとうございます。たいへん貴重なご意見をいただきました。選定療養に関しては先生と全く同じ考えです。今、保険以外の自費でやっている歯科医療、歯科技術は普遍化された場合はだちに保険医療にというのが協会の願いです。

入るときに点数が低いから採算がとれないというご意見がありますが、新しい医療を入れることによって患者さんのニーズが増える、あるいは需

要が増える、これは非常に大切です。点数に関しては歯科医師が国民に対して、あるいは厚労省に対してアップを要求する。我われの経営が成り立つような点数を要求するのが協会の務めと思っています。選定療養に関しては強く反対していき

たいと思います。歯科医療の需要を喚起することにしまして、ずっと以前から言われている予防とか、メンテナンス、これをどのようにして保険の中に入れていくのかという運動を進めていきたい。保険に入れるために厚労省あるいは国民の方々にどう理解を求めるか、学術関係の方とお話をして逐次やっていきたいと思っています。

土田先生の放送時間を延長してくれという話ですが、今までにマスコミに歯科が登場することがほとんどなかった。予算のことであるという出でくるところですが、歯科

の発展のために運動をするのに十分な予算を使っていきたいと、毎月、理事会で検討しますが、事務局の長期休暇などで予算的に余る部分が出ております。それを特別の会計に入れていくんですが、おっしゃる通りに放送時間を延長する、あるいは回数を増やすように働きかけたいと思っています。

梁川先生がおっしゃったこと、全くその通りだと思います。医療保険が崩壊しますと、日本国民の命を縮めるということ。われわれも言っているつもりなんです。もう少し皆さんにわかるように伝えていきたいと思っています。

【小澤力副理事長】

裁判では残念なことにレセプトオンラインの義

いっことをもっとアピールするべきではないか。彼のやったことが、日本の生命を売り渡したということをはっきりアピールすべきではないか。マスコミもそういう視点をもってほしい。

義務化の撤回という部分で、義務化という文言を付けないといけないこと、もう一点は損害賠償を求めないで大阪で受け付けないということ、やむを得ず出している

基本となるのは梁川先生がおっしゃったことと関連するのですが、レセプトオンライン化の根底にあるのは、まさに医療の市場化です。アメリカのようになる。「シッコ」の世界が日本に訪れる。そのための第1段階としてどうしてもレセプトオンライン化が必要で

標準化をし、それぞれの医療を包括化し、なおかつ保険会社が医療機関にお金を払うときに、その契約者が「あなたは保険会社に以前の病気を言っていないではないか」と。それをどこで調べたのかという話ですが、まさにアメリカはその情報をきっちり保険会社に流す形をとっています。

同じようにオンラインというものは、これから日本でも医療を市場化するためにはどうしても避けて通れない。公的医療費を下げ、民間の保険会社が医療の主軸を握り、医療機関・医者を支配するために絶対に必要な道具だ

というところが1点です。もう一つは、患者さん(5面に続く)

第24回 保団連医療研究集会 (主催:全国保険医団体連合会)

深めよう！日常診療に活かす医科歯科連携

10/10(土)~10/11(日)

近年「ビスホスホネート」や「歯周病と全身疾患」などに代表されるように、医科と歯科の連携が重視されています。医科歯科一体である保険医協会・保団連はこのような状況に多大な貢献ができる立場にあり、また期待されています。こうした視点から、今年は「医科歯科連携」をキーワードに多面的な視点からの議論と交流が拡がることを期待し、第24回医療研究集会を開催いたします。

【記念講演】

「全身疾患と歯周病〜医科歯科連携に向けて」(仮)

講師 中川種昭氏 (慶応義塾大学医学部歯科口腔外科教授)

問い合わせ：大阪府歯科保険医協会事務局 (Tel.06-6568-7731)

10/10 18:00-20:30

◆話題提供 森壽生氏 (保団連副会長)

◆記念講演

会場

東京・都市センターホテル

参加費

歯科医師：8,000円
スタッフ：500円

10/11 9:00-16:00

◆分科会

「在宅医療・介護」
「歯科診療の研究と工夫」
「医科歯科連携した研究と日常診療の工夫」ほか

◆ポスターセッション

◆シンポジウム

「医師・歯科医師としての高齢者介護」
「食育—健康な大人になるために」ほか